

# 牛久：学校周辺に見る自然

第44号 ひたち野西近隣公園(ひたち野うしく小)

2012年12月5日発行

＜水辺公園、秋の動物たち～冬越しに備えて ③バッタ・カマキリの仲間＞  
11/8、ひたち野うしく小4年生との水辺公園、秋の観察。今回はバッタやカマキリの仲間です。  
カマキリの仲間やバッタの仲間は、ツチイナゴなど一部をのぞいて、卵で冬を越します。



おしりを上げて威嚇(いかく)する、ハラビロカマキリ。その名の通り腹部(ふくぶ)が広く、ずんぐりして見える。



この公園で、一番よく卵のうを目にするカマキリが、このハラビロカマキリではないでしょうか？ご覧の通り、木の上で生活することが多く、成虫は他のカマキリほど見かけないかもしれませんが、卵のうは葉を落とした木の枝や、幹についているのをよく見ます。他の場所と比べ、枯れ草などについている卵のうを見かけないので、オオカマキリなど草はらに多いカマキリでは、産卵しても、卵のうが草といっしょに刈りとられてしまうためかもしれません。適度の草刈りは、ここの生きものたちによい影響をもたらしますが、その回数や時期などは、考える必要があるでしょう。成虫は、近づくとおしりを上げて威嚇(いかく)しますが、幼虫は何もしなくてもはじめからおしりを上げていることがけっこうあるようです。弱い幼虫が、身を守るための本能なのでしょうかね？

ハラビロカマキリの卵のう。うっかり、写真を撮るのを忘れていたので、これは2/27に写したものです。



ファイティングポーズをとるコカマキリ。地表の草をかき分けるように歩きまわるのをよく見かける。

「茶色のカマキリがいたよ〜っ!」と見せてくれたのが、この**コカマキリ**でした。その名の通り、小型のカマキリで、カマの内側に黑白のもようがあるのが特ちょうです。



サツキの植え込みにいたオオカマキリ(左, 10/30)と、チョウセンカマキリの卵のう(右, 11/5)。

こちらは、**オオカマキリ**の成虫と**チョウセンカマキリ**の卵のう。10/30 にサツキの植え込みにオオカマキリがいて写真を取り、産卵したかとも思い 11/5 に同じ株を見たら、なぜかそこにはチョウセンカマキリの卵のうが?? カマのつけ根の黄色や、後翅(こうし)の紫褐色の特ちょうしかっしょくは確認しています。そのあとからチョウセンカマキリが来て、産卵したということでしょうか? あり得ないことではないでしょうが、観察の 11/8 には卵のうもなくなっていて、なぞのままです。ところでカマキリはバッタの仲間と思っている人も多いようですが、じつはゴキブリやシロアリに近いのだそうです。



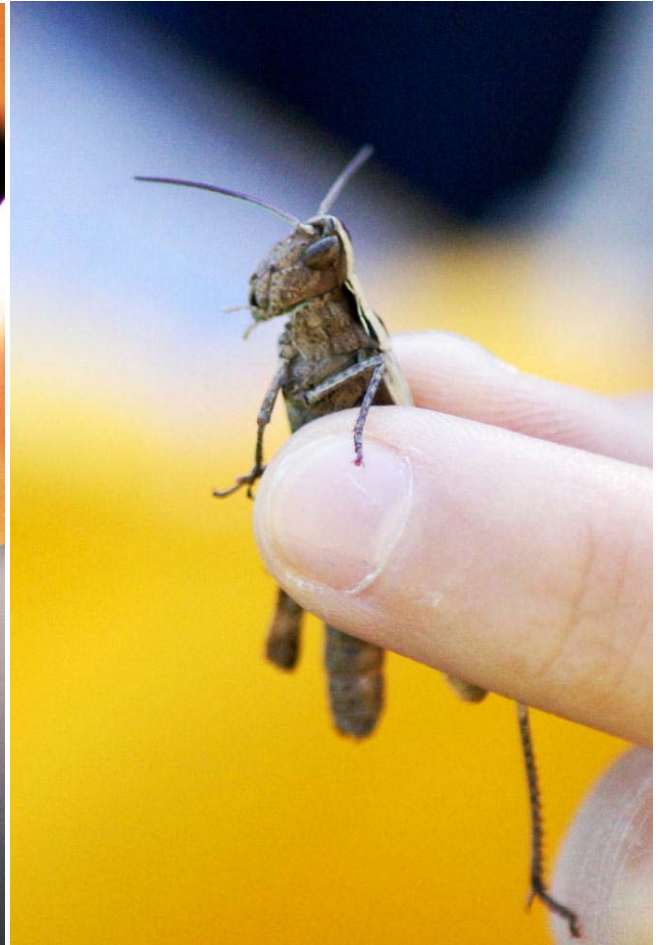


↑ 力なく、のそのそと歩くように逃げるショウリョウバッタ。

さあ、今度はバッタの仲間です。おなじみの**ショウリョウバッタ**がいました。もう力ないようすで、近づくとそのそと歩くようにして逃げて行きました。

下は、**ヒナバッタ**。河原などかわらの日当たりのよい草はらかつしよくにいるバッタで、つやのない褐色かっしよくをしています。写真に写っていませんが、腹部ふくぶの黒いしましまかっしよくもようも特ちょうの一つ。

つやのない褐色で、腹部に黒いしま模様があるヒナバッタ。 ↓



最後に、**コバネイナゴ**。ふつうに「イナゴ」とよんでいるのはこれつくだにで、佃煮にされるのもこれが多いようです。イネの害虫としても知られています。水辺近くの湿しめった草はらはねに多く見られます。成虫になっても翅はねが短いので、「小羽イナゴ」です。【理科支援員 宮内】